ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権(インカレ)
唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

株式会社 モルテン

東京本社　〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7
大阪・名古屋・福岡・広島・四国・仙台・札幌・リノU.S.A.・デュッセルドルフG

巻頭言

メジャーなスポーツを目指して

アテネ強化特別委員会会長　岩井正樹

20世紀最後のオリンピックイヤーとなり、シドニー大会の話題で日本も大変盛り上がっていますが、残念ながら私どものハンドボールは、この話題に加わることができませんでした。世の中には沢山のスポーツ競技が存在しますが、メジャーな人気を持つスポーツは野球、サッカーなど一部に偏っており、またメジャーな人気はないが、世界の中で、日本が強く、かつ上位ランクにあるために世の中に広く認知されているスポーツもあります。その結果、これらのスポーツがシドニーオリンピックへの出場を果たし人気を集めていますが、ハンドボールはこのどれからも外れていて、世の中に余り知られていないのが実状であると思います。したがって、当然のことながら、ハンドボールを知っていただくためには、底辺の拡大、環境づくりを行いながら、頂点のナショナルチームを徹底して強化し、世界ランクの高い位置に上げる両面の展開が必要であると思います。そして一連の活動を世の中の皆さんに広く情報提供していくことが大切なことと考えております。

シドニーオリンピックへの出場が果たせなかった結果、新しくアテネオリンピック特別強化委員会が設置されましたが、オリンピック予選を見る限り、世界との力の差は歴然であり、現時点ではアジアのトップの座を獲得することさえも難しい位置にあると思います。したがって、ハンドボールに係る人々が、この事実を認め、認識を変えて、シドニーオリンピック予選の敗戦を教訓として体制を整備し、選手層の拡大、レベルアップを行って世界へ飛び出せるようなインターナショナルなスポーツにするべく、ハンドボール関係者が一丸となって強化に取り組む必要があると思います。アテネオリンピック特別強化委員会も、４年後のアテネ出場を必達としかつ上位入賞を目指して短期で全力をあげて、これらの活動の支援体制を作り推進していくつもりであります。

幸いハンドボール協会より“NTSの構想”“がんばれ10万人会”など基礎作りに着手されており、アテネ強化特別委員会もこれらの施策を中心に底辺づくり、環境づくりを強力に推進していくつもりです。その中でもハンドボールをプレーする選手１人１人が、高校、大学、社会人の夫々の世代で目標がもてる環境づくり、また現役を退いた選手でも、自分の人生としてハンドボールに係ることが大きな目標であり、終わってみて本当にハンドボールをやっていて良かったと言えるシステムを作り上げてみたいと考えております。

またナショナルチームの強化は、アテネオリンピック出場を必達として、本大会でも上位入賞を目標に、全ての角度で情報分析を行い有効な強化手段をとって１年毎に、１イベント毎に、また１試合毎にレベルアップをはかっていけるように強化手段のチェックを行って、新しいアイデアをつけ加えて着実にステップアップをはかっていきたいと考えております。その視点は

1. ナショナルチームを、ハンドボールに係る人全員でサポートする体制…私たちのナショナルチーム
2. インターナショナルな活動の場作りと数多くの選手の体験
3. できる限り多くの人がナショナルチームに参加できるシステム

の３つを中心に進めてまいります。

どうか皆さんの絶大なるご理解とご支援をよろしくお願いします。

第6回ヒロシマ国際ハンドボール大会ジャパンカップ2000
日本ハンドボールリーグ25周年記念事業

男子 全日本 優勝／女子 全日本 惜しくも2位

広島県ハンドボール協会副理事長 山本 一

1994年に広島で開催された第12回アジア競技大会のメモリアル大会として翌年から開催されているヒロシマ国際ハンドボール大会も今年で6年目を迎えました。
今回は昨年と同様ジャパンカップを兼ねると共に25周年を迎えた日本ハンドボールリーグ記念事業として男女8チームを広島に迎え、開催されました。

広島で毎年国際大会を行うにあたって、われわれ広島のハンドボール関係者の望みはこの大会を日本男女ナショナルチームの強化に役立ててもらうことです。今年の1月、熊本で行われたシドニーオリンピックアジア地区予選に敗れ、悲願のオリンピック出場はならなかったものの、次の目標であるアテネに向けて再スタートを切った田口隆全日本男子、伊藤宏幸全日本女子には今後の戦略を考える意味からも価値ある大会としてとらえて欲しかったわけです。

男女両チームにとっては8月中旬から中国上海で始まる世界選手権アジア予選を間近に控えているだけに、その調整具合を計るのにもちょうど良い時期ではなかったかと思います。

今大会の参加チームは、男子はチェコのクラブチームBanik Karvina（バニック・カルビーナ）、エストニア・ナショナル、日本ナショナル、日本リーグ選抜の4チーム、女子は台湾ナショナル、韓国体育大学、日本ナショナル、日本リーグ選抜の4チームの計8チームでした。

◀対チェコ戦 全日本中山選手のポストへのパス

男子のチェコについては当初フリーデック・ミースティックというチェコ国内リーグ2位のチームが参加する予定でしたが大会直前の7月14日に同チームの来日が不可能となったとの連絡を受け多少慌てたわけですが、7月17日に代わりのチームとして1999年度、2000年度ブンデスリーグ1位のバニック・カルビーナというチームを推薦してきました。日本協会、広島県協会共に協議の結果、この期に及んで1チーム欠けると運営上もまずいし、より強いチームが来るわけだからという事で多少の条件はつくものの、受け入れを決定したという国際大会ではありがちなドタバタ劇を今回も経験しました。

エストニア・ナショナルチームは、現在湧永製薬でコーチ兼選手として活躍しているリホ・ブルーノ・ブラマニス選手が主将を務めるチームです。7月22日に広島に入り湧永製薬で日本ナショナルチームと共に合宿練習を行うという気合いの入れ様です。

対する日本ナショナルは8月に上海で行われる世界選手権アジア予選に出場するメンバー全員が参加しました。ヨーロッパで武者修行中のＧＫの橋本行弘、ＣＰの茅場清の両名も久しぶりに広島のハンドボールファンの前に元気な姿を見せてくれました。地元湧永製薬からもますます円熟味の増した中山剛、進境著しい坪根敏宏選手ら5名が出場し場内を沸かせます。

またJHL選抜チームは日本ナショナルに勝るとも劣らないメンバーが揃いました。JHLに所属する外国人選手がそれぞれの国でのナショナル活動、休暇で参加しなかったのは残念でしたが、この前まで全日本メンバーの一員として戦っていた岩本真典（三陽商会）、藤井孝志（大同特殊鋼）たち百戦錬磨の兵を揃えたJHL選抜は今大会での台風の目のような存在でした。

一方女子はといえば、台湾チームは今回平均年齢21.3才という若いメンバーで来日。周坤松団長のいうように発展途上のメンバーなので今回は各チームの胸を借りるつもりでの試合参加。今後の日本にとっての脅威となるか。

昨年に続く参加となった韓国体育大学は昨年4位という不本意な成績に終わり雪辱戦の意味もかねての参加。御存じの通り世界のトップを行く韓国ナショナルチームにイズミで活躍している林五卿、呉成玉をはじめとしてこれまで数多くのナショナル選手を輩出している韓国きっての名門校です。このチームの団長は韓国ナショナルチームの監督として何度も世界の王座に君臨した経験を持ち、また今ではIHFレフェリーとして世界選手権、オリンピックなどで審判を務める鄭享均氏です。

今回のチームはシドニーオリンピックで金メダル奪回を目指すナショナルチーム、及びジュニアチームの合宿などで5名が欠けているとはいえ、残ったメンバーで十分に戦える陣容です。

迎え撃つ日本ナショナルチームは伊藤宏幸監督のもとヨーロッパ遠征、国内合宿などをこなし充実したチーム作りを行いその仕上がり具合を計り、8月の世界選手権アジア予選に向けて余念のないところです。イズミの青戸あかね主将を中心としたメンバーも数度にわたる合宿練習でチームワークもバッチリ、昨年に続き連覇をねらいます。

また、JHL選抜も全日本メンバーとして活躍が期待されている橋詰とね選手を初め昨年度三冠に輝いたイズミの選手4人が含まれるいずれも個性派の新進気鋭の選手で戦います。JHL選抜を率いる林五卿監督の采配も見どころです。

大会は7月27日の広島市役所、広島県県庁の表敬訪問を皮切りに記者会見、代表者会議をもって始まりました。

表敬訪問は各チーム団長、喜井美雄日本協会常務理事、浜脇純一広島市協会会長が森元弘志広島市助役、藤田雄山広島県知事を訪問し大会開催の挨拶を行いました。

記者会見では各チームの監督が参加し、今大会への抱負などを広島運動記者クラブハンドボール分科会のメンバーを中心とした報道陣の前で披露しました。

代表者会議では今大会のルールの確認、試合出場メンバーを14名とすること、各試合での着用ユニフォームの確認、また昨年の大会で混乱した同勝ち点の場合の順位決定方法の確認などを和気あいあいのうちに決定しました。

7月28日からいよいよゲームの開始です。日本チームの活躍

◀対チェコ戦
田場選手のシュート

を中心に追っていきます。

今回も初日は湧永製薬の本拠地でもあり、1996年に行われた広島国体ハンドボール競技少年の部の会場となって以来ますますハンドボール熱の高くなった高田郡甲田町の湧永満之記念体育館と広島市の東区スポーツセンターで開幕しました。

甲田会場では男女日本ナショナルがエストニア、台湾を下しそれぞれ順調なスタートを切りました。エストニアと戦った男子はエストニアの主将で湧永のブルーノの頑張りにあい一進一退の激しい攻防が続いたが７得点の中山、５得点の田場ら湧永勢の活躍などもあり21―19で逃げ切りました。

女子は台湾を攻守に圧倒し、33―８という大差で勝ちました。

広島会場は高校生女子の招待試合に引き続き行われました。

女子のJHL選抜は大会前日の27日に集合した即席チームのためか韓国体育大学と戦った前半はミスも多く９―17という大差をつけられましたが、後半に入りがぜん猛反撃。後半14分には20―20の同点とし、その後も一進一退を続けましたが20分過ぎ、振りきられ金星を逸しました。

男子のJHL選抜は大金星。急遽来日することになったチェコチームはフランスの航空機事故にも巻き込まれ、26日夜の成田着、27日午後の広島入りとコンディションは最悪の状態であったとはいえ、JHLチームの元気さがやけに目立ちました。のびのびとしたプレーはチェコをすべてに圧倒し、後半追い上げられたもののまったく余裕の勝利で金星には間違いありません。

２日目は広島市東区スポーツセンターでのゲーム。

全日本男女ともJHL選抜が相手。共に相手の癖を知っているもの同士だし全日本チームにとって勝って当たり前、負ければ何を言われるかわからないだけにやりにくかったと思われます。

男子はJHL選抜の堅い守りの前に苦戦を強いられ、前半17分までお互いのＧＫの好守もあり４―４というロースコアの展開でした。その後、冨本（大同特殊鋼）、角谷（トヨタ車体）、田場（湧永製薬）の３連取でリードし、７―５で前半終了。後半開始早々同点にされ、13分過ぎまで一進一退が続きました。２点連取したものの終了間際１点差に詰め寄られたがかろうじて逃げ切りに成功しました。ＧＫ坪根（湧永製薬）のファインセーブがなかったら負けていたかも知れません。

女子もまた前半戦まったくリズムがつかめず、22分過ぎまで１点差。終了間際３点入れて11―８で後半へ。後半に入りやっと自力を発揮。山下麗子（オムロン）らが勝負どころで得点を重ね23―18で制しました。

３日目も広島市東区スポーツセンターでのゲーム。

男女全日本勢は明暗を分けました。

男子は徐々に時差ぼけも直り元気の出てきたチェコが相手。得点力があるだけに油断はできない。負けても対戦間の勝ち点で優勝は決まっているものの負けてしまってはすべてが水の泡。気を引き締めてのゲームです。前半戦はリードしたりされたり一進一退の好ゲーム。１点リードされた24分過ぎから山口、中山、田場（以上３人湧永）、角谷（トヨタ車体、元日新製鋼）が地元広島の声援を受け４連続得点で前半を13―11で終了。このまま行くかと思われた後半もチェコに連続得点を３度され23分、４度目の同点とされる。やっと24分田場、角谷、冨本の３連続得点で逃げ切りに成功。この試合11得点をあげた田場と随所に好セーブを見せた坪根の活躍が光りました。

女子は韓国体育大学と１位をかけて対戦。

いつものことながら前半戦スタートは調子が出ず、前半16分まで３―８とリードを許す展開。やっと17分大石（オムロン）の得点で目ざめたか、13分間で８得点し前半戦を11―11で終了。後半戦に入り文字どおり１点入れると１点入れられるといった攻防が15分過ぎまで続く。18分に同点とされるとあっという間に４連取され19―22。その後ディフェンスも踏ん張り28分台に田中美音子（Skovbakken）が２点連取したが、後一歩のところで逃げ切られました。

すべての試合が終了後、場所を広島市内のホテルに移し、藤田雄山広島県知事、田中鋭治（財）広島市体育協会会長、大野徹（財）広島県体育協会専務理事を初めとするこの大会を開催するにあたりお世話になった方々にも出席いただき山下泉広島県ハンドボール協会会長の挨拶により、表彰式、サヨナラパーティーを行いました。各国の役員、選手団、参加レフェリー、日本協会役員、広島県協会役員と国際交流も行われ、大会の幕を閉じました。

試合結果および表彰選手は別記の通りですが、今大会で印象に残ったことは、地元広島勢、特に男子の湧永製薬勢が頑張ってくれたことです。中国新聞には連日広島勢の活躍が写真入りで報道されました。今大会には大勢の方に会場にお越しいただき、手に汗握る熱戦が多かったこともありますが、地元勢の活躍によりこれまでの大会以上に盛り上がったといえます。

◀対韓国戦
青戸選手のシュート

広島の大会は手作りの大会をモットーにしています。ハンドボール関係者全員が日本ハンドボール協会の傘下にあります。30分でも１時間でも手伝ってくれる人は大歓迎の精神です。

参加選手役員の皆さんにお配りしたＩＤカードももちろんそうです。カードの裏の押し花、広島県の花“もみじ”は甲田町にある湧永満之記念庭園からいただきました。それを協会役員、イズミの選手たちが精魂込めてラミネート加工したのも手作りの一例です。

しかしながら大会をやって本当によかったと言える日が来るのは日本男女ナショナルチームが揃って世界選手権で、オリンピックでいい成績を上げてくれることです。たやすくない道程ですが青春をハンドボールに注ぎ込んでおられる皆さんの真摯な姿を見ていると、きっと明るい展望が開けてくると思います。頑張ってください。

今年広島では日本リーグはもちろんですが11月にはインカレ、12月には全日本総合とこれまでになくイベントの開催が予定されています。全国からこられる役員、選手の皆さんに広島に来てよかったと言われるよう、これからも精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。またこの国際大会のためにポスターの原画を書いていただいたアオシマ　チュウジ様を初めこの大会を開催するにあたりご支援いただきました各方面の方々に対しあらためてお礼申し上げます。

試合結果

男子

◎7月28日（金）

［甲田会場　湧永満之記念体育館］

		前半/後半		
全日本	21	13－10 8－9	19	エストニア

［広島会場　東区スポーツセンター］

		前半/後半		
日本リーグ選抜	26	17－9 12－14	18	バニック・カルビーナ

◎7月29日（土）

［広島会場　東区スポーツセンター］

高校男子招待試合

		前半/後半		
岩国工業高校	26	14－5 12－3	8	広島選抜
全日本	15	7－5 8－8	13	日本リーグ選抜
エストニア	29	15－11 14－10	21	バニック・カルビーナ

◎7月30日（日）

［広島会場　東区スポーツセンター］

		前半/後半		
エストニア	22	10－9 12－9	18	日本リーグ選抜
全日本	25	13－11 12－11	22	バニック・ガルビーナ

女子

◎7月28日（金）

［甲田会場　湧永満之記念体育館］

		前半/後半		
全日本	33	15－4 18－4	8	台湾

［広島会場　東区スポーツセンター］

高校女子招待試合

		前半/後半		
高松商業高校	18	8－7 10－5	12	広島県選抜
韓国体育大学	27	17－9 10－16	25	日本リーグ選抜

◎7月29日（土）

［広島会場　東区スポーツセンター］

		前半/後半		
全日本	23	11－8 12－10	18	日本リーグ選抜
韓国体育大学	30	15－7 15－8	15	台湾

◎7月30日（日）

［広島会場　東区スポーツセンター］

		前半/後半		
日本リーグ選抜	35	19－10 16－7	17	台湾
韓国体育大学	22	11－11 11－10	21	全日本

【順位】

《男子》

1位　全日本　3勝0敗

◀優勝した韓国女子（韓体大）鄭亨均団長の胴上げ

2位　エストニア　2勝1敗

3位　日本リーグ選抜　1勝2敗

4位　バニック・ガルビーナ　0勝3敗

《女子》

1位　韓国体育大学　3勝0敗

2位　全日本　2勝1敗

3位　日本リーグ選抜　1勝2敗

4位　台湾　0勝3敗

【優秀選手】

《男子》

〈大会MVP〉

田場裕也（湧永製薬）

〈各試合毎の優秀選手〉

■全日本

中山　剛（湧永製薬）　田場裕也（湧永製薬）

坪根敏宏（湧永製薬）

■エストニア

マルグス・バリク

リホ・ブルーノ・ブラマニス

トイボ・ヤルブ

■日本リーグ選抜

松林克明（大同特殊鋼）　日原一幸（大同特殊鋼）

野村広明（トヨタ車体）

■バニック・ガルビーナ

レネ・バシェック

パヴォール・パラコヴィッチ

ダヴィッド・ユリチェック

《女子》

〈大会MVP〉

禹　仙姫（ウ・ソンヒ）

〈各試合毎の優秀選手〉

■韓国体育大学

禹　仙姫（ウ・ソンヒ）

文　恩實（ムン・オンシル）

■全日本

青戸あかね（イズミ）　山下麗子（オムロン）

倉知光子（日立栃木）

■日本リーグ選抜

橋詰とね（イズミ）　藤井裕子（日立栃木）

鶴野亜矢子（日立栃木）

■台湾

賴　麗君（ライ・リチュン）

易　秀雲（イ・シュウウン）

洪　嘉連（ホン・ジャレン）

▲台湾

▲日本リーグ選抜(女子)

◀日本ナショナル
(女子)

▲韓国体育大学

▲エストニアナショナル

◀日本ナショナル
(男子)

▲日本リーグ選抜(男子)

▲チェコ

第6回女子アジアジュニア選手権に参加して

U−19女子監督　田中俊行

1　直前合宿　in　名古屋

今大会は、来年8月にハンガリーで行われる世界女子ジュニア選手権大会の予選を兼ね、上位4チームが出場権を獲得することになっている。参加国は、日本、韓国、中国、台湾、インド、ネパール、バングラディシュの7か国で、大会の方式は2グループにより予選リーグを行い、グループ上位2チームが決勝ラウンドへ進出する形式をとっていた。日本は中国、バングラディシュと同組となったが、決勝ラウンドで韓国、台湾、中国との戦いになることは十分に予想された。

チームとしては世界選手権のキップを手にすることはもとより、3位以内に入り、メダルを獲得することが目標であった。また、U−19のメンバーは将来的にナショナルチームでの活躍が期待され、同じメンバーが再び合い見える可能性があるということを考えれば、この時点で試合内容で肉薄し、勝っておくことは大切な要素である。従って、そのような気概を持ちながら戦うよう、選手には目標を提示した。

その準備として、7月17日からブラザー工業体育館で大会への準備を行った。今回の直前合宿の大きな特徴は、ナショナルチームとのゲーム形式による合同合宿が組まれていることである。その目的は、以下のとおりである。

①ナショナリティーの養成
　ナショナルチームとの連携をはかることにより、最終目標がナショナルチームにあることを選手に示唆する。

②規格外のプレーに適応させる
　ジュニアの世界のトップは、サイズ、スピード、コンタクトの強さという点で、高校男子の全国トップクラスを凌駕する。自分たちの練習だけではなかなか経験できないことが多く、ナショナルと合同で行うことにより、スピードとコンタクトの強さに適応させることがねらいである。

③ナショナルチームとしてのコンセンサスの獲得
　特に、体格体力差をいかにしてカバーするかという点と、後半点が伸び悩む傾向はカテゴリー、男女を問わず、共通の問題点である。

直前合宿では、上記の目的に対し、有意義な合宿であったと考えている。特にナショナルチームがプレス系のディフェンスであったため、その対応についてはできるようになったと評価している。最大の反省点は、怪我によるリタイアを出してしまったことである。絶対にあってはならないことであり、本人と所属チームに多大なるご迷惑をおかけしたことを、深くお詫び申し上げたい。

一応の手応えを感じながら、出発の前日には団長以下スタッフも全員がそろい、23日にナショナルスタッフの見送りを受け、酷暑の名古屋を後にすることになった。

2　喧騒と熱気のなかで

シンガポール航空機が暗い闇の底に沈んでいるようなダッカ空港に降り立ったのは、定刻どおり7月23日の午後11時半を少しまわったところであった。

亜熱帯気候で雨季に入るバングラディシュは、予想をしていたよりもことさらに湿気が多く、空港にもねっとりとした空気が充満していた。イミグレーションの前に今大会のスポンサー、バングラディシュ連盟関係者、日本大使館と海外青年協力隊の出迎えを受け、写真とケーキのもてなしがすんだころようやくバスに乗り込みホテルへと向かうことができた。

街全体はうす暗く、建物のつくりはよく見えないが、人の多さはよくわかった。暗やみの中に湧いてでてくるように、数多くの人がうごめいていることがバスの中からもよくわかる。祭りが終わった後のようなその風景をながめながら、明後日からの大会への期待と不安についてぼんやりと考えていた。3時間の時差とシンガポールでの5時間に及ぶトランジットのためか疲労の度合いは濃く、一刻も早くシャワーをあびてベッドに潜り込みたいと感じ始めた頃、ホテルに到着。長い一日がようやく終わった。

大会前日となる次の日は、試合会場であるシャヒード・シューラワルディー国立屋内競技場で、調整のトレーニングを行った。体育館の蒸し暑さは相当なものがあるが、ゲームの時には冷房が入るということを確認し、暑さに対する不安は解消することができた。しかし、体育館までの30分の道のりでは、無法地帯のような道路の渋滞と世界一空気が悪いといっても過言ではない排ガスに閉口し、バクシーシの人々も含めた人の多さと嵐のようなスコールに圧倒されることとなった。また、どこへ行くにもものものしい警官隊が同行することは、容易に外出することができないことを物語り、それはホテルでの軟禁生活状態を同時に意味することでもあった。

選手の体調、コンディショニングは現時点では悪くはないが、大会が進むにつれ、どう影響を及ぼすか懸念されるところである。

3　戦評

［7月26日・予選ラウンド］

JPN　44（18−4 / 26−6）10　BAN

初戦ということもあり、固さのみられた日本であったが、岡田の速攻、太田（弥）のロングシュートでペースをつかみ、一気に主導権を握る。バングラディシュも左腕エースにボールを集め反撃を試みるが、固いディフェンスを崩すまでにはいたらず、逆に加藤、細木の速攻等で着実に加点した全日本は、大量14点差で前半を折り返す。後半は田中、寺田の速攻や、川端のロングで勢いにのり、全員得点で試合をしめくくった。

◇個人得点…加藤４、田中２、太田（弥）３、川端６、岡崎３、新田１、太田（智）５、岡田８、寺田４、細木７
◇ベストプレーヤー・オブ・ザ・マッチ…加藤

［７月27日・予選ラウンド］

CHN　19（10—9／9—9）18　JPN

フロータートリオの活躍で、幸先よく連取するものの、中国も高さを活かしたロングシュートと２次速攻で応戦し、一進一退の展開となる。前半途中から出場の岡崎の５連打で、１点差の前半を終了。後半は新田、岡崎の好プレーで得点をするが、中国もゆずらず、試合は終盤へと進んでいった。16対18の２点ビハインドで残り５分、日本がペナルティーをとった場面で、突然のレフェリータイム。オフィシャルからのクレーム（得点が現時点で17対18で中国の１点リード）に対し、当然のことながら中国が猛反発。15分の中断の後、オフィシャルの絶対に正しいというコメントのもと、スコアは17対18で再開。引き分けも視野に入れた残り４分30秒の戦いで、注文どおり19対19でタイムアップとなり、誰もがグループ１位を確信したはずであったが…。

◇個人得点…太田(弥)１、田中１、岡崎８、新田３、太田(智)１、岡田４

［７月29日・決勝ラウンド］

KOR　33（17—６／16—８）14　JPN

中国戦翌日のテクニカルミーティングで、勝敗が入れ替わり、まさかのグループ２位となり、Aグループ１位の韓国との対戦。太田（弥）の３連打で一進一退の攻防となるが、前半中盤からことごとくシュートを落とし、苦しい展開となる。タイムアウト後なんとか流れも引き戻そうとするが、着実に加点され大差で前半を終了。後半も相手の多彩な攻撃にディフェンスが押し込まれ、また、変則５—１のディフェンスに対し反撃の糸口を見つけられず、屈辱のタイムアップとなった。

◇個人得点…北岡１、太田（弥）４、岡崎３、太田（智）１、岡田１、富田３、吉兼１

［７月31日・３位決定戦］

JPN　25（７—10／18—６）16　CHN

拙攻を重ね、台湾にまさかの敗戦を喫した中国との雪辱戦。前半は新田、太田(弥)、岡崎の活躍でリードを奪うものの、相手退場時の好機に得点をあげれず、３点ビハインドの折り返しとなる。後半立ち上がりに加藤の速攻で逆転し、白熱した攻防が続くが、新田のカットインで抜け出し、終盤に７連続得点をあげ勝利をおさめた。

◇個人得点…加藤１、太田（弥）５、田中５、岡崎４、新田５、太田（智）１、岡田１、寺田３
◇ベストプレーヤー・オブ・ザ・マッチ…田代

４　各チーム特徴

韓国の圧倒的な強さと台湾のけれんみのない戦いが目をひいた今大会。簡単ではあるが、各チーム（韓国、台湾、中国）の戦術構想をひも解いてみたい。

①韓国／ディフェンスは、基本的に３—２—１と６—０を併用。初戦の台湾戦で３—２—１はコンビネーションミスを多発していたため、その後６—０ディフェンスをメインに押し通したのも理解できる。６—０ディフェンスは典型的なスイッチシフトであるが、キーパーのロングシュートの処理とダブルポストになった時のポスト同士の受け渡しにやや難がある。(日本戦に関しては、変則５—１を採用)

得点源の一つである１線目（サイド、ポスト）へのボールだしは、ジュニアだけでなく韓国の速攻の生命線である。全くをもって健在。そのトランジッションの速さ、パスアウト、２線目のボール運びのうまさ、そこからのポストプレーは一つのスタイルになっている。

②台湾／何と言っても、小気味のよいほどのロングシュートには目をひかれる。走り込んでの全く迷いのないシュートは勢いがあり、また、ブラインドサイドに打ち分ける技術とスタンディングシュートも含めたシュートのバリエーションは、韓国、中国のディフェンスをてこずらせた。オフェンスの戦術はいたってシンプルであるが、フローターが誰でもシューターであることと、そのウラを使ったポストプレーはコンビネーションとして確立されている。

ディフェンスは、プレス系３—２—１。そこからのカウンター速攻も、一つの武器となっている。

アジアの４番手の感が強い台湾であるが、２位になったことはフロックではないことは、試合内容から十分うかがえる。

③中国／まずはサイズのアドバンテージが脅威である。しかし、今回乗り切れなかった原因に、そのアドバンテージを活かしたポストプレーヤーやディフェンスでのシューターへのプレッシャーはあまりなかったことがあげられる。押し込まれた時のロングシュートにはその威力を発揮したが、単発の感は否めず、苦戦を強いられたのではないだろうか。

ディフェンスは６—０と５—１を併用。ロングシュートに対するキーパーとディフェンスとのコンビネーションがあわないせいか、５—１をメインにしていた。

得点源は２次速攻によるポストプレーとそれを起点にしたロングシュート。セットでは、パス＆ラン、から走りに合わせたロングシュートが主である。

５　総括・まとめ

中国を破り３位以内を確保したことは、当初の目標を達成し、一応は納得いく結果でありました。闘う姿勢を最後まで崩さなかった選手やチームを支えていただいたスタッフの方々に大変感謝をしています。

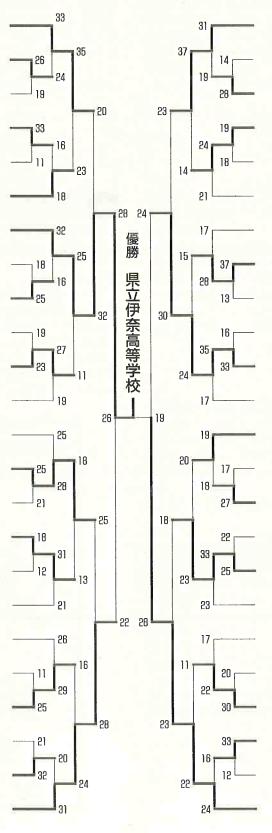
しかし、戦略をより強固なものにし、よりいいチーム、強いチームになる可能性はまだまだ十分にあり、チームも発展途上にあります。今後の更なる努力が必要であると実感しています。

最後になりましたが、大会を控えているにもかかわらず、U—19に快くご協力をいただいた各チームの指導者と、遠征にご尽力をいただいた関係者の方々には、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成12年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第51回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

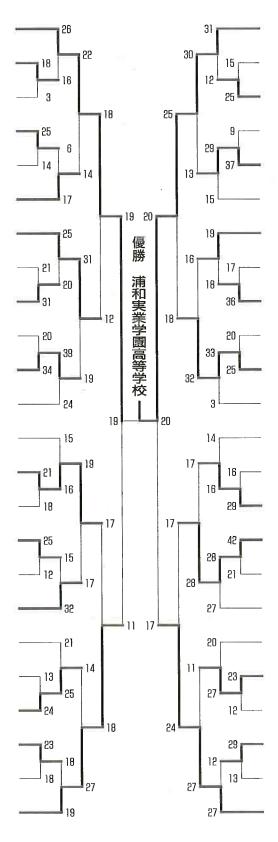
男子

高岡向陵高等学校（富山）
県立東根工業高等学校（山形）
県立鹿児島工業高等学校（鹿児島）
清水市立商業高等学校（静岡）
県立池田高等学校（徳島）
國學院大学栃木高等学校（栃木）
県立伊奈高等学校（茨城）
仙台育英学園高等学校（宮城）
県立紀北農芸高等学校（和歌山）
県立広高等学校（広島）
県立小林工業高等学校（宮崎）
長野県屋代高等学校（長野）
県立香川中央高等学校（香川）
熊本市立千原台高等学校（熊本）
駿台甲府高等学校（山梨）
県立岐阜北高等学校（岐阜1）
県立境港工業高等学校（鳥取）
県立北大和高等学校（奈良）
県立小松工業高等学校（石川）
県立江津高等学校（島根）
県立神埼清明高等学校（佐賀）
県立青森商業高等学校（青森）
県立富岡高等学校（群馬）
桃山学院高等学校（大阪）

興南高等学校（沖縄）
県立今治西高等学校（愛媛）
横浜商工高等学校（神奈川）
県立河瀬高等学校（滋賀）
県立岐阜商業高等学校（岐阜2）
県立総社高等学校（岡山）
育英高等学校（兵庫）
北陸高等学校（福井）
二松学舎大学附属沼南高等学校（千葉）
県立羽後高等学校（秋田）
大分国際情報高等学校（大分）
県立四日市工業高等学校（三重）
府立洛北高等学校（京都）
北海道函館工業高等学校（北海道）
明星高等学校（東京）
県立不来方高等学校（岩手）
久留米工業大学附属高等学校（福岡）
中越高等学校（新潟）
県立松蔭高等学校（愛知）
県立高知南高等学校（高知）
学校法人石川高等学校（福島）
県立岩国工業高等学校（山口）
浦和学院高等学校（埼玉）
瓊浦高等学校（長崎）

平成12年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第51回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

女子

東海学園高等学校（愛　知）
初芝橋本高等学校（和歌山）
山陽女子高等学校（広　島）
宮崎女子高等学校（宮　崎）
県立池田高等学校（徳　島）
昭和学院高等学校（千　葉）
府立洛北高等学校（京　都）
筑紫女学園高等学校（福　岡）
県立栃木商業高等学校（栃　木）
県立倉敷中央高等学校（岡　山）
聖和学園高等学校（宮　城）
長野県屋代高等学校（長　野）
小松市立高等学校（石　川）
県立陽明高等学校（沖　縄）
県立水海道第二高等学校（茨　城）
県立高山高等学校（岐阜2）
県立東根工業高等学校（山　形）
夙川学院高等学校（兵　庫）
県立吉田高等学校（山　梨）
県立境高等学校（鳥　取）
佐賀女子高等学校（佐　賀）
県立盛岡第二高等学校（岩　手）
県立高松商業高等学校（香　川）
県立福井商業高等学校（福　井）

浦和実業学園高等学校（埼　玉）
県立青森中央高等学校（青　森）
県立鹿児島南高等学校（鹿児島）
県立巻高等学校（新　潟）
宣真高等学校（大　阪）
県立岩国商業高等学校（山　口）
横浜創英短期大学女子高等学校（神奈川）
函館大学付属柏稜高等学校（北海道）
県立松橋高等学校（熊　本）
県立彦根翔陽高等学校（滋　賀）
県立益田高等学校（岐阜1）
県立岡豊高等学校（高　知）
県立静岡城北高等学校（静　岡）
県立富岡東高等学校（群　馬）
県立郡山東高等学校（福　島）
県立氷見高等学校（富　山）
松江市立女子高等学校（島　根）
聖和女子学院高等学校（長　崎）
県立添上高等学校（奈　良）
文化女子大学附属杉並高等学校（東　京）
県立今治北高等学校（愛　媛）
暁高等学校（三　重）
県立大曲農業高等学校（秋　田）
県立大分鶴崎高等学校（大　分）

第13回全国小学生ハンドボール大会

男子の部、神森小学校ハンドボールクラブ 女子の部、三佐ハンドボールクラブスポーツ少年団が優勝

都道府県の代表チームが覇を競う「第13回全国小学生ハンドボール大会」が７月28日～30日で京田辺市内３会場で開催された。1988年の京都国体で同市がハンドボール競技会場となったことから毎年、小学生の全国大会が開催されている。今回は青森県野辺地ハンド、秋田県湯沢市ハンドボールスポ小、山形県東根ハンドボールスポ小チームの初参加を含め、24都道府県から42チーム、計635名の参加があった。

〈男子の部〉

◆準決勝

神森小が高い個人能力とコンビプレーで玉名町小を15対７で下し決勝に進んだ。一方横瀬ハンド、桃園小の対戦では、前半から１点を争う好ゲームを展開したが、後半に入り３点リードした桃園小が横瀬ハンドの終盤の追い上げを振りきり、１点差で決勝に進出した。

◆決勝

神森小、地元桃園小の決勝では、全員が高い攻撃力を持つ神森小が切れ味鋭いフェイントプレーや細かいパスプレーで桃園小を圧倒した。桃園小もエース篠原のロングシュートや、ゴールキーパーの好セーブで必死に防戦するも力及ばず、17対５で神森小が勝ち、初優勝を飾った。

なお、玉名町、横瀬小の３位決定戦は、横瀬小が逆転により、17対15で玉名町ハンドを下した。

〈女子の部〉

◆決勝

試合開始後、両チーム共にかたさがみられたが、三佐ハンドスポ少の方がリズムをつかみ、早いパス回しからサイドシュートと速攻で加点した。仏生寺スポ少の方もロングシュートとカットインで加点したが前半９対５で終了、三佐ハンドスポ少が４点リードで折り返す。後半に入り、仏生寺スポ少のディフェンスがよくなり、サイドシュートもＧＫの好守でふんばり追い上げていった。後半残り５分、２点差まで追い上げるが、最後は三佐ハンドスポ少が14対13の１点差で逃げきった。決勝戦にふさわしい素晴らしいゲームであった。

◆３位決定戦

延岡東ハンド、当山小で争われたが前半互角の勝負であったが、後半に入り、体力、実力に勝る当山小が一気に加

男子の部予選リーグ

Aブロック

	神森小	東根	LITTLE	順位
神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）		○ 15-7	○ 17-4	1位
東根ハンドボールスポ少（山形県）	× 7-15		○ 18-9	2位
LITTLE GUTS（山口県）	× 4-17	× 9-18		3位

Bブロック

	笹川	甲田	京田辺市	順位
笹川ハンドボール少年団（三重県）		× 10-13	× 6-13	3位
甲田ハンドボール部（広島県）	○ 13-10		× 5-19	2位
京田辺市選抜（京都府）	○ 13-6	○ 19-5		1位

Cブロック

	総社	富岡	安居	順位
総社クラブジュニア（岡山県）		△ 13-13	× 5-15	3位
富岡イーグルス（群馬県）	△ 13-13		× 11-12	2位
安居ブルーサンダー（福井県）	○ 15-5	○ 12-11		1位

Dブロック

	本宮	玉名町	貝塚	順位
本宮ハンドボールスポ少（福島県）		× 4-23	△ 13-13	3位
玉名町小学校（熊本県）	○ 23-4		○ 18-11	1位
貝塚バーディーズ（大阪府）	△ 13-13	× 11-18		2位

Eブロック

	S.H.C	桃園	豊田市	順位
S.H.C鶴巻（東京都）		× 11-15	○ 12-10	2位
桃園小学校（京都府）	○ 15-11		○ 17-7	1位
豊田市ハンドボールスクールミニ（愛知県）	× 10-12	× 7-17		3位

Fブロック

	三松小	播磨	湯沢市	順位
三松小ハンドボールスポ少（宮崎県）		× 8-13	× 11-12	3位
播磨ラッキーズ（兵庫県）	○ 13-8		○ 13-10	1位
湯沢市ハンドボールスポ少（秋田県）	○ 12-11	× 10-13		2位

Gブロック

	窪	真弓	横瀬	順位
窪スポーツ少年団（富山県）		○ 21-4	× 10-18	2位
真弓クラブ（奈良県）	× 4-21		× 11-19	3位
横瀬ハンドボールクラブ（大分県）	○ 18-10	○ 19-11		1位

Hブロック

	塩山	オリーブ	高盛	順位
塩山ハンドボールスポ少（山梨県）		○ 11-9	× 5-12	2位
オリーブくん＆上西小（香川県）	× 9-11		× 6-14	3位
高盛クラブ（北海道）	○ 12-5	○ 14-6		1位

点して、18対10の大差をつけて勝利した。

（事務局実行委員・藤本、小山、中森　記）

大会結果

〈男子の部〉

優　勝　神森小学校ハンドボールクラブ
準優勝　桃園小学校ハンドボールチーム
第３位　横瀬ハンドボールクラブ
第４位　玉名町小学校ハンドボール部

〈女子の部〉

優　勝　三佐ハンドボールクラブスポーツ少年団
準優勝　仏生寺町スポーツ少年団
第３位　当山小学校
第４位　延岡東ハンドボールクラブ

大会成績

〈男子の部（決勝トーナメント）〉

▼１回戦

神森小学校（沖縄県）	15―９	京田辺市選抜（京都府）
玉名町小学校（熊本県）	11―10	安居ブルーサンダー（熊本県）
桃園小学校（京都府）	７―３	播磨ラッキーズ（兵庫県）
横瀬ハンドボールクラブ（大分県）	24―６	高盛ハンドボールクラブ（北海道）

▼準決勝

神森小学校　15―７　玉名町小学校
桃園小学校　16―15　横瀬ハンドボールクラブ

▼３位決定戦

横瀬ハンドボールクラブ　17―15　玉名町小学校

▼決勝戦

神森小学校　　17―５　　桃園小学校

〈女子の部（決勝トーナメント）〉

▼１回戦

網津小女子ハンドボール部（熊本県）	11―９	野辺地ハンドボールスポ小（青森県）
富岡ラビッツ（群馬県）	10―４	安居ブルーサンダー（福井県）
仏生寺スポ少（富山県）	25―６	笹川ハンドボールスポ少（三重県）
京田辺市選抜（京都府）	19―７	LITTLE　GUTS（山口県）

▼２回戦

三佐ハンド（大分県）	17―12	網津小女子ハンドボール部（熊本県）
延岡東ハンド（宮崎県）	17―10	富岡ラビッツ（群馬県）
仏生寺スポ少（富山県）	19―12	桃園小学校（京都府）
当山小学校（沖縄県）	14―５	京田辺市選抜（京都府）

▼準決勝

三佐ハンド　　17―12　延岡東ハンド
仏生寺スポ少　15―９　　当山小学校

▼３位決定戦

当山小学校　　18―10　延岡東ハンド

▼決勝戦

三佐ハンド　　14―13　仏生寺スポ少

女子の部予選リーグ

あブロック

	神戸	三佐	LITTLE	順位
神戸ラスカルズ（兵庫県）		×0-16	×5-9	3位
三佐ハンドボールクラブ（大分県）	○16-0		○16-4	1位
LITTLE GUTS（山口県）	○9-5	×4-16		2位

いブロック

	安居	京田辺市	上西小	順位
安居ブルーサンダー（福井県）		○14-8	○17-7	1位
京田辺市選抜（京都府）	×8-14		○22-11	2位
上西小＆オリーブちゃん（香川県）	×7-17	×11-22		3位

うブロック

	笹川	延岡東	大浜	順位
笹川ハンドボール少年団（三重県）		×9-18	○13-7	2位
延岡東ハンドボールクラブ（宮崎県）	○18-9		○31-4	1位
大浜キッズ（大阪府）	×7-13	×4-31		3位

えブロック

	桃園	落合	富岡	順位
桃園小学校（京都府）		○24-5	○15-6	1位
落合しらうめハンド（岡山県）	×5-24		×7-17	3位
富岡ラビッツ（群馬県）	×6-15	○17-7		2位

おブロック

	仏生寺	網津小	甲田	順位
仏生寺スポ少（富山県）		○20-9	○21-9	1位
網津小女子ハンド（熊本県）	×9-20		○12-11	2位
甲田ハンドボール部（広島県）	×9-21	×11-12		3位

かブロック

	当山	真弓	野辺地	順位
当山小学校（沖縄県）		○16-2	○14-6	1位
真弓クラブ（奈良県）	×2-16		×4-16	3位
野辺地ハンド（青森県）	×6-14	○16-4		2位

第20回全国クラブ選手権大会東地区大会

男子・神楽坂会（東京）、女子・氷見クラブ（富山）が共に初優勝

第20回全国クラブ選手権大会東地区大会は、７月29日、30日の両日にわたって、本宮町総合体育館をメイン会場に、本宮体育館、本宮高校体育館において、熱戦が繰り広げられた。

男子の部は、実業団ＯＢを主体とする、蒔田クラブ、ラージェストが有力と見られたが、準決勝を延長で切り抜けた神楽坂会が、最後までスタミナとスピードを維持し、初優勝を飾った。

女子の部は、今年国体を控える富山から出場の氷見クラブが、センター高野の好リードから、前半で勝負を決める強さを見せ初優勝した。

なお、一回戦敗者で行われた本宮町長杯は、男子が向陵クラブ（富山）、女子が山梨クラブ（山梨）が獲得した。

試合結果

【男子】

◆会長杯トーナメント

▼１回戦

全郡山	31－15	有斗クラブ
神楽坂会	25－16	三条クラブ
岩手教員クラブ	34－17	北クラブ
ラージェスト	21－13	金津クラブ
蒔田クラブ	21－19	向陵クラブ
栃の葉クラブ	25－14	青森クラブ
湖陵クラブ	31－25	大曲ＯＢクラブ
日川クラブ	31－18	福島ＳＧクラブ

▼２回戦

神楽坂会	22－15	全郡山
岩手教員クラブ	19－18	ラージェスト
蒔田クラブ	26－12	栃の葉クラブ
日川クラブ	31－27	湖陵クラブ

▼準決勝

神楽坂会	31－27	岩手教員クラブ
日川クラブ	27－25	蒔田クラブ

▼決勝

神楽坂会　18（9－6／9－9）15　日川クラブ

［戦評］開始早々、平塚のゴールで日川が先制。しかしながら、神楽坂のディフェンスは足が良く動き、日川はなかなかディフェンスを割ることができない。神楽坂は、警告を続けて受けたが、日川のディフェンスの外からのシュートや、ミスを拾い速攻で徐々に得点を重ねていった。日川も４－７となったところでチームタイムアウトを請求し立てなおしを図ったが、前半を９－６の神楽坂会リードで終了。後半、

▲東地区大会優勝の神楽坂会

▲神楽坂会、中水流の速攻シュート

▼日川クラブ
藤本のカットイン

日川は平塚で踏ん張るが差は詰まらない。逆に11分から神楽坂会の３連取で17―11と離され、最後は18―15で神楽坂が初優勝を飾った。最後までスピードの落ちなかった神楽坂の若さの勝利であった。

◆町長杯トーナメント

▼１回戦

三条クラブ　26―16　有斗クラブ
金津クラブ　18―15　北クラブ
向陵クラブ　26―19　青森クラブ
大曲ＯＢ　37―36　福島ＳＧ

▼準決勝

金津クラブ　20―13　三条クラブ
向陵クラブ　29―20　大曲ＯＢ

▼決勝

向陵クラブ　24―15　金津クラブ

【女子】

◆会長杯トーナメント

▼１回戦

氷見クラブ　30―11　花巻クラブ
かぶら女子　15―11　札幌さくらクラブ
岩手桐花クラブ　15―12　山梨クラブ
埼玉白小鳩　16―９　FUKUSHIMA

▼準決勝

氷見クラブ　13―11　かぶら女子
埼玉白小鳩　11―８　岩手桐花クラブ

▼決勝

氷見クラブ　19（12―５ / ７―10）15　埼玉白小鳩

▲女子東地区優勝の氷見クラブ

◀氷見クラブ、盛田の７ｍスロー

［戦評］氷見クラブは、開始早々から佐山、高野、河原などで、ポスト、カットイン、ロングと多彩な攻めを見せ着々と加点していった。一方の埼玉は、野尻のロングで対抗するが、ゴールを割ることができず、前半で12―５と大勢が決まってしまった。後半に入り、田中が踏ん張るものの、ディフェンスの足がついていかず、警告、退場、７ｍスローと立て続け、追いつくことができない。結局、19―15で氷見クラブが初優勝を飾った。

◆町長杯トーナメント

▼１回戦（準決勝）

花巻クラブ　19―15　札幌さくら
山梨クラブ　25―13　FUKUSHIMA

▼決勝

山梨クラブ　16―12　花巻クラブ

第20回全国クラブ選手権大会西地区大会

男子は愛知教員、女子はMMCの愛知県勢が共に初優勝

第20回全国クラブ選手権大会西地区大会は、７月22・23日の両日、猛暑の中、三重県四日市ドームで開催された。

男子は４組の予選リーグが行われ、それぞれ久留米クラブ（Ａ組）、下松クラブ（Ｂ組）、愛知教員（Ｃ組）、ソニー国分（Ｄ組）が全勝で１位トーナメントに進出した。決勝トーナメントでは、愛知教員がチームのまとまりの良さを見せ、初優勝を飾った。

女子は、２組の予選リーグが行われたが、ａ組では３チームが勝ち点で並び、なおかつ２チームが得失点で１位が決まるという激戦であった。結果、愛知のMMCが１位となり、決勝へ駒を進めた。決勝では、名短附高ＯＧを主体とするMMCが、粘るコザクラブを振りきり初優勝を遂げた。

大会には、池ノ上孝司、田口順子、山川由加、尾関（寺沢）路子などの往年の名プレイヤーが元気な姿を見せ、大会を盛り上げていた。

試合結果

【男子】

▼予選リーグＡ組
①久留米クラブ（福　岡）
②那賀クラブ（和歌山）
③西笹川クラブ（三　重）

▼予選リーグＢ組
①下松クラブ（山　口）
②ＰＦ須磨東（兵　庫）
③清商ヤング（静　岡）

▼予選リーグＣ組
①愛知教員（愛　知）
②正強ＯＢ（奈　良）
③天城クラブ（岡　山）

▼予選リーグＤ組
①ソニー国分（鹿児島）
②中央クラブ（香　川）
③京友クラブ（京　都）

▼９～12位決定戦
清商ヤング　25―11　西笹川クラブ
天城クラブ　24―14　京友クラブ
清商ヤング　26―12　天城クラブ

▼５～７位決定戦
那賀クラブ　20―16　ＰＦ須磨東
中央クラブ　22―15　正強ＯＢ
中央クラブ　24―15　那賀クラブ

▼準決勝
下松クラブ　19―16　久留米クラブ
愛知教員　30―18　ソニー国分

▼３位決定戦
久留米クラブ　21―18　ソニー国分

▲西地区優勝の愛知教員

▼ロングからカットインをねらう池ノ上（ソニー国分）

▲決勝で８得点を挙げた愛知の吉田

▼決勝

愛知教員 22（9―9／13―5）14 下松クラブ

［戦評］立ち上がりから、愛知教員は下松クラブのミスを拾い田中の速攻で次々と加点する。一方の下松は愛知のディフェンスを破ることができず、ズルズルとリードを許した。前半11分には6―1と試合の大勢を決めた。この後も下松は散発の得点にとどまり、13―5で前半を終えた。後半に入っても愛知は中村の巧リードから着々と得点を重ね22―14で優勝を飾った。

■最終順位

①愛知教員　②下松クラブ　③久留米クラブ　④ソニー国分　⑤中央クラブ　⑥那賀クラブ　⑦ＰＦ須磨東　⑦正強ＯＢクラブ　⑨清商ヤング　⑩天城クラブ　⑪西笹川クラブ　⑪京友クラブ

【女子】

▼予選リーグａ組

①ＭＭＣ（愛知）
②熊本クラブ（熊本）
③香川レディース（香川）
④古都クラブ（京都）

▼予選リーグｂ組

①コザクラブ（沖縄）
②金曜クラブ（大阪）
③さくら（岡山）
④あゆみクラブ（三重）

▼7・8位決定戦

あゆみクラブ 13―11 古都クラブ

▼5・6位決定戦

香川レディース 21―18 さくら

▼3・4位決定戦

熊本クラブ 18―13 金曜クラブ

▼決勝戦

ＭＭＣ 21（11―9／10―9）18 コザクラブ

▲西地区優勝のＭＭＣ

◀日下部（ＭＭＣ）のカットインシュート

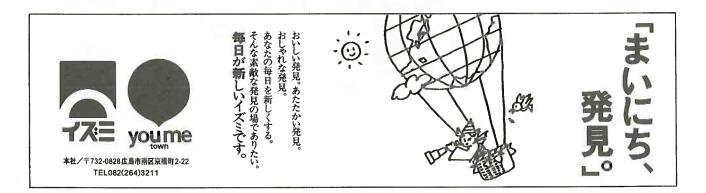
［戦評］開始早々、日下部がポストにうまく落として愛知が先制。コザは池原で踏ん張り、すぐさま取り返す。その後は愛知・日下部と山川のロングとカットイン、コザは池原のカットインを軸にＭＭＣ先行で展開。前半は11―9の愛知リードで折り返す。後半に入り、ややＭＭＣの足が止まったところへコザが速攻で追いつき、6分には12―12の同点。その後一進一退が続くが、14分からＭＭＣが山川、日下部の4連取で試合の大勢を決めた。

■最終順位

①ＭＭＣ　②コザクラブ　③熊本クラブ　④金曜ハンドボールクラブ　⑤香川レディース　⑥さくら　⑦あゆみクラブ　⑧古都クラブ

アテネにつなげ真夏の予選

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

シドニー五輪チケットをつかめなかった日本ハンドボール界だが、この夏は来年を見据えての世界選手権予選で熱い戦いが繰り広げられている。男女のシニア、ジュニア予選で、４大会が同じ時期に開催されるのは、史上初めてのことである。

日本の悲願は男子で３大会、女子で６大会連続逃しているオリンピック出場権奪回である。日本協会では４年後のアテネ大会へ向けていろんな対策を講じているが、新たに代表強化とともに振興策を含めた「アテネ強化特別委員会」をスタートさせ、サポートしていくことになった。総力を挙げての成果を期待したいものだ。

さて、４大会予選はまず、ジュニア女子が予選を突破、幸先よいスタートを切った。高温多湿という悪コンディションの中でのキップ獲得は大いに称えられてよかろう。世界の舞台の厳しさを体験できたことも、貴重な財産になることだろう。

さて注目はやはり、シニアが出場権を手に入れる朗報をもたらしてくれるかどうかである。先のジャパンカップでは、男女とも強化合宿の成果を見せた反面、弱点も暴露した。田口、伊藤両監督が本番までにどう戦力アップさせるかも興味がある。男子は１位なら文句なく出場権を手に入れるが、２位ならアジア西地区との３位争いになる。中東勢との戦いになるだけに、なんとしても１位をつかみたいところだ。

女子はシドニー五輪出場の韓国が群を抜いているようだが、ワクが４つあるだけに門戸は広い。だが、せめて中国は倒して２位での予選突破を果たしてもらいたい。

男子の田口監督は「最終目標はあくまでアテネ五輪だが、この予選では４年後につなぐ結果を出したい」と意欲いっぱいだ。

しんがりに開幕のジュニア男子は、日本人によく言われる“外国人コンプレックス”を感じさせないたくましさを持ち合わせているだけに、強豪国にひとあわ吹かせてくれる期待は大だ。こちらも熱い結果を楽しみにしたい。

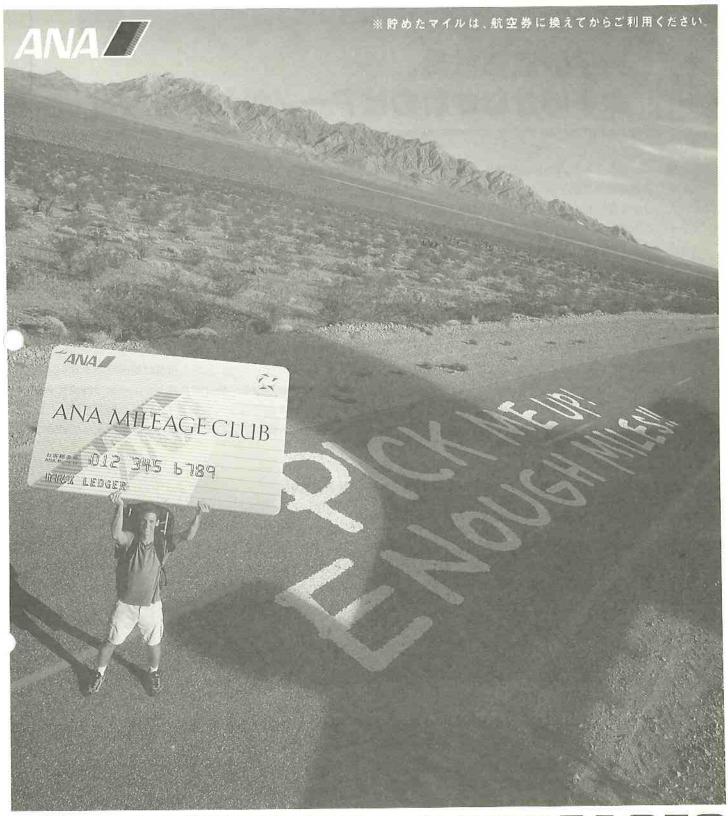
さて、その４大会だが、なんとしても外国勢との戦いのチャンスが少ない日本としては、出場は各国との厳しい環境の中での戦い、さらに情報収集のためにも格好のチャンスである。それが必ず2004年のアテネへの道へつながってくることになるであろう。

日本のスポーツに対する評価は、失礼ながら五輪出場の有無で決まるといってもいいくらいだ。だからこそ、五輪出場権は何が何でも必要である。高いハードルであるかもしれない。でも、それだからこそ価値もあろうというものだ。アテネへの道は五輪につながると確信する。特に厳しい今年の夏の一服の清涼剤となってほしい―それがハンドボールの世界選手権出場権確保である。真夏の夢を楽しみにしている。

ANA

※貯めたマイルは、航空券に換えてからご利用ください。

ANA MILEAGE CLUB

PICK ME UP!
ENOUGH MILES!!

The MILEAGE of MILEAGES

ネットワークがひろがって、マイルがさらに貯めやすく、使いやすくなりました。

今、全日空の空が大きく広がろうとしています。充実した国内線はもちろん、国際的な航空会社ネットワーク「スターアライアンス」への加盟により、国際線もさらに拡大。マイレージも、ぐっとワイドに貯まります。選ぶなら、やっぱり「ANAマイレージクラブ」。貯めやすさが断然ちがいます。

全日空（ANA）

エアーニッポン（ANK）

*スターアライアンス加盟の提携エアライン

エアカナダ

ニュージーランド航空

アンセット オーストラリア航空

ルフトハンザ ドイツ航空

スカンジナビア航空

タイ国際航空

ユナイテッド航空

ヴァリグ ブラジル航空

*スターアライアンス以外の提携エアライン

オーストリア航空

ブリティッシュ ミッドランド航空

マレーシア航空

シンガポール航空

スイス航空

ANAマイレージクラブ

10月31日 全日空は、スターアライアンスに加盟。世界112ヶ国以上、760以上の都市をネットワークで結びます。

男子第43回女子第27回全日本教職員ハンドボール選手権大会

男子は京都教員、女子はかながわガビアーノが栄冠を獲得

男子第43回女子第27回全日本教職員ハンドボール選手権大会が愛媛県総合運動公園体育館で開催された。

大会は、７月25日から28日までの４日間、男子７、女子５チームが参加して熱戦を繰り広げ、男子は京都教員ハンドボールクラブ、女子はかながわガビアーノの頭上に栄冠が輝いた。

男　子

▼予選リーグ
　＊表組参照

▼準決勝
京都教員　24—16　愛媛教員
埼玉教員　28—21　福岡教員

▼３位決定戦
愛媛教員　22—21　福岡教員

▼決勝戦
京都教員　19（11—11 / 8—7）18　埼玉教員

全日本教職員大会男子優勝・京都教員ハンドボールクラブ

■決勝戦

７チーム出場の男子は、予選リーグ上位２チームが準決勝に進み、埼玉教員クラブと京都教員ハンドボールクラブが決勝で対決した。

高さとパワーの京都と粘りの埼玉の試合は決勝戦にふさわしい好ゲームとなった。前半10分、速攻を中心に京都が５－２とリードしたが、埼玉は粘りのあるポストからの田中の３連続シュートを含む６得点で11—11の同点で折り返した。後半、京都は片山のロングシュートなどで、２点差までリードしたが、埼玉は11分野平の速攻で15—14とこの試合初めてリードした。しかし京都は松岡のサイドシュートで同点に追いつき、榑谷のポストシュートで再びリードし、そのまま逃げ切り、９年ぶり３回目の優勝を飾った。選手の平均年齢が39才の埼玉の粘りと健闘が光った試合であった。

■３位決定戦

前半、愛媛が蜷川のミドルシュートや野本の速攻などで、一時６点差までリードを広げたが、福岡の堤、今福のミドルシュートなどにより追いつかれ、11対11の同点で終了した。後半は逆に福岡が久保野のポストシュートなどで３点差までリードしたが、再三にわたる愛媛ＧＫ田村の好セーブもあり扇山の速攻などで追いつき、逆転勝ちを果たした。

■ベスト７（優秀選手）

山下　信之（京都）
佐久間良幸（京都）
片山　和泰（京都）
山口　剛之（埼玉）
田中　英俊（埼玉）
作道　勉　（愛媛）
児島　悟　（福岡）

女　子

▼予選リーグ
　＊表組参照
▼準決勝
京都教員　28—17　ＷＩＮＳ
かながわガビアーノ　20—10　愛媛ハンドボールクラブ
▼３位決定戦
愛媛ハンドボールクラブ　18—13　ＷＩＮＳ
▼決勝戦

かながわガビアーノ	17	7—9 10—5	14	京都教員クラブ

全日本教職員大会女子優勝・かながわガビアーノ

■決勝戦
　５チーム参加の女子は、かながわガビアーノと京都教員クラブが決勝で対戦。
　前半はガビアーノの里見の５得点の活躍に対し、京都は速攻で対抗し、９—７の京都リードで折り返した。後半ガビアーノは６分里見の７ｍスローで同点に追いつくなど、18分まで一進一退の攻防であったが、19分、20分に京都が相次いで退場者を出し、ガビアーノが村上の速攻など４連続得点し、京都を突き放した。京都もＧＫ正木の好セーブや終盤、辻の連続得点で追いすがったが、退場が響き、ガビアーノが３年連続３回目の優勝を果たした。

■３位決定戦
　愛媛は河本の速攻と矢野のポストシュートにより着々と得点を重ね、12対４で前半を終了した。後半、愛知ＷＩＮＳは谷山のミドルシュートや津留のサイドシュートなどで追い上げたが、一歩及ばず愛媛が17対13で逃げ切った。愛媛ＧＫ白石の再三にわたる好守も光った。

■ベスト７（優秀選手）
　荒川有希子（かながわ）
　安留　桜子（かながわ）
　中後　美希（かながわ）
　辻　賀奈子（京都）
　永武　恵子（京都）
　矢野　明美（愛媛）
　藤本巳由紀（ＷＩＮＳ）

▼男子・予選リーグA

	神奈川	京都	千葉	福岡	勝敗	順位
リリオ神奈川		× 17-22	○ 24-14	× 21-24	1勝2敗	3位
京都教員ハンドボールクラブ	○ 22-17		○ 22-12	○ 27-11	3勝	1位
千葉教員	× 14-24	× 12-22		× 22-35	3敗	4位
福岡教員	○ 24-21	× 11-27	○ 35-22		2勝1敗	2位

▼男子・予選リーグB

	神奈川Ｇ	愛媛	埼玉	勝敗	順位
リリオ神奈川Ｇ		× 17-26	× 14-31	2敗	3位
愛媛教員クラブ	○ 26-17		× 17-23	1勝1敗	2位
埼玉教員クラブ	○ 31-14	○ 23-17		2勝	1位

▼女子・予選リーグ

	かながわ	琉球	ＷＩＮＳ	京都	愛媛	勝敗	順位
かながわガビアーノ		○ 21-9	○ 23-8	△ 18-18	○ 19-7	3勝1分	2位
琉球クラブ	× 9-21		× 15-17	× 12-18	× 12-13	4敗	5位
ＷＩＮＳ	× 8-23	○ 17-15		× 5-23	× 13-25	1勝3敗	4位
京都教員クラブ	△ 18-18	○ 18-12	○ 23-5		○ 28-11	3勝1分	1位
愛媛ハンドボールクラブ	× 7-19	○ 13-12	○ 25-13	× 11-28		2勝2敗	3位

第8回全日本ハンドボールマスターズ大会

男子は下関巌流会が3連覇
女子は風見鶏ファミリーが初優勝

大会を振り返って

第8回全日本ハンドボール
マスータズ大会事務局　石川　達也

本年度のマスターズ大会は、初めて本州を離れ、四国は愛媛県・松山の地で開催された。大会は男子10チーム、女子8チームが参加し(そのうち5チームが初参加)、過去最多チームの参加を得て、大会は大いに盛り上がった。

1日目は、男女それぞれ2ブロックに分かれて予選リーグが行われた。参加者の年齢を考慮して、予選リーグは、試合時間20分で行った。

「家族で楽しむ大会」としてすっかり定着した感のある試合では、ベンチに選手の子供たちが座り、盛んに声援が送られるというマスターズ大会ならではの光景が見られた。

マスターズ大会　子供たちの時間（7ｍスローコンテスト）

昼休みを利用した「子供たちの時間」には、選手に同行したチビッコたち40人ほどが、人気キャラクターのぬいぐるみを着たゴールキーパーに対し、7ｍスローコンテストを行い、ドラえもんやキティーちゃんのマグカップをおみやげにもらった。また、地元愛媛県の小学生ハンドボールチームと大会参加選手の子供たちによる有志チームとでミニゲームを行い、将来の全日本候補選手の好プレイに会場からは温かい拍手が送られた。

1日目の夜は、恒例の懇親会が道後温泉「にぎたつ会館」で行われた。役員・選手・同行した家族も参加しての大懇親会は、総勢250名に及び、家族ぐるみ親睦・友情を深めることができた。

2日目は、順位決定戦が行われた。和気あいあいのムードの中にも、勝利を目指して、老体（?）に鞭打つ姿が印象的だった。元全日本選手の往年を思い出させる素晴らしいプレイも随所に見られた。

試合の方は、男子がインターハイ2連覇の時の下関中央工業高校メンバー中心の下関巌流会が見事に大会3連覇を果たした。女子は、かつて教職員大会で活躍していた兵庫県の風見鶏ファミリーが初優勝した。

試合終了後は、お互いの無事と健闘を讃え合い、相手チームの何人もの選手と握手を交わすマスターズ大会特有の雰囲気は、今年もまた仲間の輪を広げることができた。生涯スポーツとしてのハンドボールのひとつの方向が見えたようにように感じた。

閉会式終了後に参加者全員で記念撮影を行い、1年後の再会を楽しみにして、本年度のマスターズ大会は幕を閉じた。

試合結果

〈男子〉

■予選リーグ

＊表組参照

■順位決定戦

▼9位決定戦

A・T・F　17—6　岡山クラブ

▼7位決定戦

下松クラブアダルツ　16—12　新居浜倶楽部

▼5位決定戦

東山クラブ　19—7　生駒オークス

▼3位決定戦

オールド愛媛　17—12　神楽坂フェニックス

▼決勝戦

下関巌流会　19（10—5 / 9—3）8　兵庫選抜

[戦評] 予選リーグを圧倒的な戦いで制してきた下関巌流会と、センターを中心に巧みな試合運びで勝ち上がってきた兵庫選抜との対決。

前半は下関巌流会3番島中、兵庫選抜5番松岡の得点を皮切りにスタートした。その後、兵庫選抜は2番穂積を起点とする攻撃から得た7ｍスローや速攻で得点、下関巌流会も速攻と粘りのあるローリング攻撃から2番飯山、6番

濵本などの得点で10分過ぎまで５対５の緊迫したゲーム展開が続いた。しかしその後は兵庫選抜の動きが止まり、下関厳流会ＧＫ植木のファインセーブなどもあって下関厳流会が５連続得点をあげ、10対５で前半を終了した。

後半に入り、兵庫選抜は退場者が出て、そこを下関厳流会は３番島中が着実に得点を重ね差を広げていった。兵庫選抜も５番松岡、９番保田が得点し粘りを見せたが、退場者が出たことによりリズムに乗り切れず試合展開を変えるまでに至らなかった。結局、終始着実に加点していった下関厳流会が19対８で勝利し３連覇を達成した。兵庫選抜も最後まであきらめることなく試合に臨み、随所で好プレーを見せた。両チームとも紳士的なプレーに終始し、得点差はついたものの、それを感じさせない好ゲームであった。

マスターズ大会・男子優勝　下関厳流会

■最終順位

①下関厳流会
②兵庫選抜
③オールド愛媛
④神楽坂フェニックス
⑤東山クラブ
⑥生駒オークス
⑦下松クラブアダルツ
⑧新居浜倶楽部
⑨Ａ・Ｔ・Ｆ
⑩岡山クラブ

〈女子〉

■予選リーグ

＊表組参照

■順位決定戦

▼７位決定戦

モッピークラブ　10―４　新居浜フォーティーツー

▼５位決定戦

ＫＡＩ　ＣＬＵＢ　11―９　武蔵野クラブ

▼３位決定戦

マミーズ　14―11　中部ドリームズ

▼決勝戦

風見鶏ファミリー	8	2―2 6―4	6	瀬戸内レディース

［戦評］女子決勝は、Ｘブロック１位の瀬戸内レディースとＹリーグ１位の風見鶏ファミリーの対戦で行われた。試合は、15分のハーフであったが、白熱した攻防となり、前半２分14秒に瀬戸内レディースのキャプテンな中田みゆきのシュートで得点すると４分28秒に風見鶏ファミリーの窪田景子が同点にするなど、双方譲らず、前半を２対２で折り返した。

後半に入り、３対３になったところから若水真由美らの３連取で風見鶏ファミリーが主導権を握り、また退場者を出した間も失点を最小限に抑えるなど、最後まで粘る前年度優勝チームの瀬戸内レディースを押し切った。なお、レフェリーもマスターズ大会らしく元国際審判員の島田房二氏が担当した。

マスターズ大会・女子優勝　風見鶏ファミリー

■最終順位

①風見鶏ファミリー
②瀬戸内レディース
③マミーズ
④中部ドリームズ
⑤ＫＡＩ　ＣＬＵＢ
⑥武蔵野クラブ
⑦モッピークラブ
⑧新居浜フォーティーツー

予　選　リ　ー　グ

【男子・Aグループ】

	兵庫	下松	岡山	生駒	愛媛	勝　敗	順位
兵庫選抜		△ 6－6	○ 16－2	○ 11－5	○ 11－8	3勝1分0敗	1位
下松クラブアダルツ	△ 6－6		○ 16－2	× 8－11	× 6－10	1勝1分2敗	4位
岡山クラブ	× 2－16	× 2－16		× 4－13	× 4－13	0勝0分4敗	5位
生駒オークス	× 5－11	○ 11－8	○ 13－4		× 4－16	2勝0分2敗	3位
オールド愛媛	× 8－11	○ 10－6	○ 13－4	○ 16－4		3勝0分1敗	2位

【男子・Bグループ】

	神楽坂	A･T･F	新居浜	東山	下関	勝　敗	順位
神楽坂フェニックス		○ 8－7	○ 13－8	○ 12－10	× 6－15	3勝0分1敗	2位
A･T･F	× 7－8		× 6－8	△ 11－11	× 6－16	0勝1分3敗	5位
新居浜倶楽部	× 8－13	○ 8－6		× 7－9	× 8－15	1勝0分3敗	4位
東山クラブ	× 10－12	△ 11－11	○ 9－7		× 6－18	1勝1分2敗	3位
下関巌流会	○ 15－6	○ 16－6	○ 15－8	○ 18－6		4勝0分0敗	1位

【女子・Xグループ】

	モッピー	瀬戸内	武蔵野	マミーズ	勝　敗	順位
モッピークラブ		× 5－9	× 3－7	○ 7－6	1勝0分2敗	4位
瀬戸内レディース	○ 9－5		○ 10－6	△ 9－9	2勝1分0敗	1位
武蔵野クラブ	○ 7－3	× 6－10		× 9－10	1勝0分2敗	3位
マミーズ	× 6－7	△ 9－9	○ 10－9		1勝1分1敗	2位

【女子・Yグループ】

	中部	新居浜	KAI	風見鶏	勝　敗	順位
中部ドリームズ		○ 9－3	○ 9－5	× 5－11	2勝0分1敗	2位
新居浜フォーティーツー	× 3－9		× 2－12	× 2－9	0勝0分3敗	4位
KAI　CLUB	× 5－9	○ 12－2		× 3－9	1勝0分2敗	3位
風見鶏ファミリー	○ 11－5	○ 9－2	○ 9－3		3勝0分0敗	1位

第３回 OB登場!!

第３回は前号の東さんからご紹介をいただいたこの方にご登場いただきます。

越　智　　武さん
（おち　たけし）
大正9年4月7日生

日本におけるハントボールの普及に多大なる功績を残した一人。日本協会理事を30年間、高体連委員を38年間にわたり務め、技術指導だけでなく審判審査・指導にも力を注いだ。現在愛媛県に在住。趣味としてテニスにも取り組むかたわら、ハンドボールの各大会を観戦、鋭い視線を送り続けている。

――― ハンドボールとの出会いについて教えてください ―――

幼い頃から運動が大好きで、昭和13年までの中学時代に野球と陸上競技に取り組み、走る・跳ぶ・投げるの三要素を鍛え、今の日体大に入学と同時に送球（ハンドボール）部に入部。ＦＷＣの位置にレギュラーとして定着し関東学生リーグ・全日本選手権等で栄冠を手にすることが出来ました。その当時とても勉強になったのが、横浜在留のドイツ人との対戦。昭和14年には、神戸在留ドイツ人を含む関西軍との東西対抗戦。この一戦が将来の私の指導の理念に大きな影響を及ぼしました。

――― 普及のために日本各地で講習会をされたとのことですが ―――

はい、日体大が全日本選手権を持っていた昭和13年と14年に関西方面での講習会を依頼され、２年間にわたり岐阜・京都・大阪・岡山・広島・鳥取・山口・福岡・熊本において西日本の一般・高校男女に技術普及を行いました。そこでは送球だけでなく、送球、体操、民謡、マスゲームまで行い、参加者も多く、各会場とも盛況でした。しかし残念なことにその後、昭和18年頃からは軍事訓練に移っていってしまいました。

当時岡山での講習会中こんな質問が。「シュートをしてヘソがついたらどう判定するのですか？」当時の送球普及レベルを想像してみてください。

――― ハンドボールを通して忘れられない思い出はありますか ―――

日体寮の厳しい生活。お金もなくのどが淋しい毎日。仲の良かったＧＫ徳永・ＦＷ山田・ＦＷ文顕柱、そして私の４名で、少量で身体に早く回るジンで乾杯するも満たされず、「練習について質問」と称し部長の池上金治先生宅へ。時間を忘れる送球討論。気がつくととっくに門限を過ぎている。さあ大変!!。４人で話し合い池上先生の名刺を証明書として活用することを発案。大成功したこと。ハンドボール討議が大切だったのか、それとも酒癖が悪かったのか。

昭和25年、第１回全国高校選手権大会。ある審判員が試合中左手でグラウンドを手探り。試合終了後何かと聞くと、なんと笛を吹いたとたん入れ歯が落ちたとのこと。砂ばかりの藤井寺球場。次の試合を待たせて役員で見つけひと安心。同じ昭和25年全日本選手権。我々は宿泊を安くと考えお寺で合宿。すると夜、ものすごい歯ぎしり１名といびきが１名。次の夜から２人を大広間のあるところに移動。想像してみてください。その後はよく眠れました。昭和28年第８回の国体を強引に愛媛県今治市に。「越智先生は人使いが荒い」といわれながらもこの時、心の輪・協力・信頼が協会内に生まれたこと。

昭和15年10月30日、全日本中等学校選手権女子決勝。互いによく知った間柄のため、協議に協議を重ねた末に私が審判を担当。延長の大激戦の末、倉敷高女が梅花高女を破ったのであるが、その中で微妙なラインクロスの判定が１つ。しかし私はその判定には自信があった。「審判員よ、判定には信念を持って吹け」一笛が夢となる。大事なのは信念ではないでしょうか。

――― いまの日本ハンドボール界に対する雑感やご提言をお願いしたいのですが ―――

中央と地方の結び付き。あらゆる機会においてこれを忘れてはならないと思います。私のハンドボール生活において、講習会や大会などで訪れていないのは日本であと３県だけですが、これからの球界の発展のためには日本協会と地方協会との心の通う交流が絶対に必要だと思います。その他にもやるべきことはたくさんあることと思います。ＮＴＳ計画の推進、指導要領の改訂に伴う小学生ハンドボールへの取り組み、そしてオリンピック参加に向けての、アテネに向けての取り組み。数え上げればきりがありませんが、ぜひこれからも、人材は変われど全力投球の協会であって欲しいと思います。

越智さん、ありがとうございました。ここに記した以外にも協会・機関誌にあたたかいご意見を頂戴することが出来ました。次号には越智さんのご紹介のＯＢが登場します。

第2回全日本ビーチハンドボール選手権大会開催される

平成12年7月29・30日：秋田県本荘市本荘マリーナ海水浴場

焼けつくような真夏の日差しの下で、7月29・30日の2日間に、第2回全日本ビーチハンドボール選手権大会が秋田県本荘市本荘マリーナ海水浴場で開催された。昨年度は千葉県安房郡富浦町で行われたこの大会だが、本年度は2001年ワールドゲームズの行われる秋田県が会場となった。

大会には男子9チーム、女子6チームの計15チームが参加した。男子は3組に分かれての予選リーグの後に決勝リーグが、女子は総当たりリーグ戦が行われ、男子は筑波大、女子はシャトレーゼAが栄冠を手にした。

東北地方初のビーチハンドボールの大会とあってか周辺地域からの参加チームが多く、秋田大学クラブが昨年覇者のオール千葉を下すなどの活躍もみせた。この大会をきっかけにビーチハンドボールの魅力が全国に知られ、各地で大会が行われるようになることを願う。

男子

《予選リーグ》

■Aブロック

「コートプレイヤーとゴールキーパーの1対1」戦

秋田大学クラブ　1－1　オール千葉
（5－4）

DFの間からシュートする村山（秋田大クラブ）

オール千葉VS TEAM NOHEJI

秋田大学クラブ　1－1　オール羽後

オール千葉　1－1　オール羽後

［順位］①秋田大学クラブ　②オール千葉　③オール羽後

■Bブロック

筑波大学　2－0　オール湯沢

筑波大学　2－0　TEAM NOHEJI

TEAM NOHEJI　1－1　オール湯沢
（5－4）

［順位］①筑波大学　②TEAM NOHEJI　③オール湯沢

■Cブロック

ブルーサンダース　2－0　IBU勝浦パイレーツ

ブルーサンダース　1－1　秋田大学
（3－0）

秋田大学　1－1　IBU勝浦パイレーツ
（4－3）

［順位］①ブルーサンダース　②秋田大学　③IBU勝浦パイレーツ

※各ブロックとも1位は1－3位、2位は4－6位、3位は7－9位の順位決定リーグへ進む。

山田（秋田大クラブ）のカットインシュート

ゴールキーパーも攻撃参加

《決勝リーグ》

■7－9位決定リーグ

オール湯沢	1－1 （4－3）	オール羽後
IBU勝浦パイレーツ	1－1 （4－1）	オール湯沢
IBU勝浦パイレーツ	2－0	オール羽後

［順位］⑦ＩＢＵ勝浦パイレーツ　⑧オール湯沢　⑨オール羽後

■4－6位決定リーグ

オール千葉	2－0	TEAM NOHEJI
秋田大学	2－0	TEAM NOHEJI
秋田大学	2－0	オール千葉

［順位］④秋田大学　⑤オール千葉　⑥TEAM NOHEJI

■1－3位決定リーグ

筑波大学	2－0	秋田大学クラブ
筑波大学	2－0	ブルーサンダース
秋田大学クラブ	2－0	ブルーサンダース

［順位］①筑波大学　②秋田大学クラブ　③ブルーサンダース

女子

《総当たりリーグ》

シャトレーゼA	1－1 （6－5）	シャトレーゼB
千葉クラブ	2－0	藤乃
秋田大学ＯＧ	2－0	TEAM Ji・Ji・i
藤乃	2－0	TEAM Ji・Ji・i
シャトレーゼA	2－0	千葉クラブ
シャトレーゼA	2－0	藤乃
シャトレーゼB	2－0	秋田大学ＯＧ
シャトレーゼB	2－0	TEAM Ji・Ji・i
千葉クラブ	2－0	秋田大学ＯＧ
シャトレーゼB	1－1 （3－2）	千葉クラブ
シャトレーゼB	2－0	藤乃
シャトレーゼA	2－0	秋田大学ＯＧ
シャトレーゼA	2－0	TEAM Ji・Ji・i
千葉クラブ	1－1 （3－0）	TEAM Ji・Ji・i
藤乃	1－1 （2－0）	秋田大学ＯＧ

［順位］①シャトレーゼA　②シャトレーゼB　③千葉クラブ　④藤乃　⑤秋田大学ＯＧ　⑥TEAM　Ji・Ji・i

連載5

NTS（ナショナルトレーニングシステム）NTSブロックトレーニングプログラム

NTS運営委員長　蒲　生　晴　明

ナショナルトレーニングシステム（NTS）は、本年3月からNTS委員を人選、コーディネーター・インストラクター・デモンストレーターについては、各所属に依頼して承認され、4月にNTS全体会議を開催することができました。さらに、5月には愛知県のご協力を得て、本年の指導内容シュミレーションを実施し、同時にテクニカルブックの製作・コーチングビデオの収録をすることができました。そして、7月末までには、各ブロックでの趣旨説明・運営スケジュールの確認・ブロック技術委員ならびに各県技術委員の選出などを各ブロック・各県協会のご支援をいただきながら鋭意進めてまいりました。

NTSブロック選手についても、選考基準に基づいて選抜を進めていただいているところです。そういった意味で、短期間にもかかわらず関係の皆様の絶大なるご支援をいただきまして、いよいよ8月25・26日の四国ブロック高知県開催を皮切りにNTSブロックトレーニングがスタートいたします。

今回は、そのスケジュールとプログラム内容などについて別表に掲載いたします。

表1・「NTSブロックトレーニング開催スケジュール」

ブロック名	開催日	開催地
北海道	9月9・10日	函館市
東　北	9月15・16日	福島県
関　東	9月2・3日	茨城県水海道市
東　海	8月26・27日	名古屋市大同特殊鋼
北信越	9月16・17日	福井県北陸電力
近　畿	9月2・3日	奈良県
中　国	9月9・10日	広島県湧永製薬
四　国	8月25・26日	高知県
九　州	8月28・29日	熊本県オムロン

本年の内容は、コーディネーション&基本技術の向上を狙いとしております。

コーチングスタッフは、全日本チーム・日本リーグチーム・学生チームなどの現役監督・コーチ選手ならびにOB・OGからなり、NTSブロック選手を直接指導します。全国9ブロックで約810名の将来のナショナル有望選手が、競い合って良い刺激を肌で感じるようにしていただきたいと考えております。

最後になりましたが、このシステムは、スタートしたばかりでありますので色々な課題・問題点などがあることと思われます。どうか、関係の皆様のご意見をいただきながら、限りないご支援・ご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。

表2・NTSブロックトレーニングプログラム

カテゴリー	トレーニング内容	時間
体力測定	30msprint(秒)・5step jump(m)	30分程度
	長座スロー(m)背筋力(g)・握力計(kg)	
ウォーミングアップ1	ドリブルウォーミングアップ	5分程度
ウォーミングアップ2	アクティブタッチ ウィズ ザ ボール	5分程度
コーディネーション1(ワンマントレーニング)	くるくるキャッチ・おんぶキャッチ	15分程度
	2ボール同時ドリブル・交互ドリブル	
	ドリブル&キックドリブル	
コーディネーション2(ツーマントレーニング)	2ボールパス・トス&パス	15分程度
	キック&パス・ドリブル&パスキャッチ	
	片手キャッチ(ボール1・2)	
コーディネーション3	4対4のタッチハンドボール	10分程度
ボディーコントロール1	(フットワーク)	15分程度
ボディーコントロール2(ディフェンス)	ディフェンスフォームキャッチ&ウォーク	
	ステップシュートブロック・ジャンプシュートブロック	
パスコントロール1	スロー・キャッチの基本フォーム	30分程度
パスコントロール2	パス(パラレル・クロス)	
パスコントロール3	3対3パスゲーム	
パスコントロール4	6人パス(ボール1、2、3)	
シュートコントロール1	ステップ・ジャンプ・ランニングシュート	30分程度
シュートコントロール2	ステップ・ジャンプ・ランニングシュート+DF	
シュートコントロール3	ノーマークシュート	
シュートコントロール4	3ポジションシュート	
MAN−MAN 1	1対1のパスゲーム	30分程度
MAN−MAN 2	シュート・ステップ・スイング・ローリング・ジャンプフェイント	
MAN−MAN 3	1対1のゲーム	
グループ戦術1(2対2のオフェンス)	2対2パラレル・クロス	40分程度
	2対2ブロック・パラバン	
グループ戦術2(3対3のオフェンス)	3対3パラレル・クロス・バッククロス	
	3対3スクリーン&ポスト	
	3対3スクリーン&ポスト切返し	
グループ戦術3(ディフェンス)	ディフェンスピストン	
	パラレル・クロスに対するディフェンス	
	ブロックに対するディフェンス	
	スウィッチディフェンス	

ゴールキーパートレーニング

カテゴリー	トレーニング内容	時間
コーディネーション1	柔軟性・ジャンプ&キャッチ	30分程度
コーディネーション2	反応トレーニング	
基本フォーム	基本フォーム&キャッチング	
セーブ1	ロングシュートのセーブ	
セーブ2	ノーマークシュートのセーブ	
ポジショニング&セーブ	トータルトレーニング	
パスアウト	ボールピックアップ&パスアウト	

表3・ナショナルトレーニングシステム(NTS)ブロック実施スケジュール

	小学生	中学生	高校生	指導者
13：00			受付	受付
13：30			ウォーミングアップⅠor 2 体力測定 コーディネーション ボディーコントロール パスコントロール ＧＫトレーニング	トレーニング見学 指導方法の把握 指導ポイントの検討 トレーニングのヒント抽出
16：30			シュートコントロール 女子　男子	
18：00			夕食	夕食
19：30				戦術・技術など講義 栄養・ウェイトTRなど講義

	小学生	中学生	高校生	指導者
9：00	受付	受付		
9：30	ウォーミングアップⅠ･2 体力測定　小全 コーディネーション ボディーコントロール パスコントロール ＧＫトレーニング シュートコントロール	ウォーミングアップⅠ･2 体力測定　中全 コーディネーション ボディーコントロール パスコントロール ＧＫトレーニング シュートコントロール	ウォーミングアップⅠ･2　男子 Ｍａｎ－Ｍａｎ　女子 グループ戦術 ゲーム	トレーニング見学 指導方法の把握 指導ポイントの検討 トレーニングのヒント抽出
12：00	rest＆昼食 世界選手権ＶＴＲ アンチドーピングＶＴＲ	rest＆昼食 世界選手権ＶＴＲ アンチドーピングＶＴＲ	rest＆昼食 世界選手権ＶＴＲ アンチドーピングＶＴＲ	rest＆昼食 世界選手権ＶＴＲ アンチドーピングＶＴＲ
13：30	Ｍａｎ－Ｍａｎ グループ戦術	Ｍａｎ－Ｍａｎ グループ戦術		トレーニング見学
15：30	ゲーム	ゲーム	ゲーム高校生	指導方法の把握
16：00	ゲーム　小全	ゲーム中学生　中全	ゲーム　高全	指導ポイントの検討
16：30	ゲーム小学生	ゲーム	ゲーム	トレーニングのヒント抽出
17：00	アンケート	アンケート	アンケート	アンケート
17：30	ＮＴＳセンタートレーニングに推薦する選手選考について			
18：00	終了後反省会（ＮＴＳスタッフ・ブロック技術委員）			
18：30				

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会

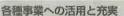
●HANDBALL FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収

- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚

財源確保

各種事業への活用と充実
○小・中学校の普及
○ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
○ミニハンドボール競技の導入
○ジュニア層の重点強化
○各大会の補助金アップ
○国際大会の招致
○一貫指導体制の確立

団結しよう！
ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

協会だより

平成12年度第1回評議員会

［日　時］平成12年6月24日（土）
13：00〜16：00
［場　所］南青山会館　第二会議室
［評議員出席者］
齋藤　浩（青森）　箱崎敬吉（岩手）
後藤義信（福島）　大村　久（茨城）
本間誠章（千葉）　滝口三郎（東京）
加藤雅之（長野）　徳前啓人（富山）
若山　博（石川）　志々場修二（福井）
角　紘昭（愛知）　東　嘉伸（大阪）
狩野幸介（兵庫）　中川敏文（奈良）
田中秀和（和歌山）松原紀機（鳥取）
西元義昭（広島）　青木　操（山口）
槙井敏明（香川）　柳原　勉（愛媛）
井　薫（熊本）　福田　稔（大分）
草井由博（実連）　島田房二（教職員）
福地賢介（学連代理）　以上25名
執行部出席者　渡邊副会長以下18名

【議題】

1. 平成11年度事業報告

（1）普及・指導に関する事業、（2）競技運営に関する事業、（3）国際に関する事業、（4）競技規則（審判）に関する事業、（5）競技力の向上（強化）に関する事業、（6）機関誌の発行に関する事業、（7）企画・広報に関する事業、（8）財務・会計に関する事業、（9）日本リーグに関する事業、（10）総務に関する事業、について報告され、以上承認された。

2. 平成11年度決算報告

収入の部は、登録金の改定及び登録制度の新設により前年度より増額したが、チーム数の減少で予算に対しては未達成となった。協賛金、積み立て金取り崩し、特別会計からの繰り入れにより増額となった。

支出の部は、事務費、慶弔費、雑費、団体補助大会費、特別会計へ繰り入れにより増額となった。積立金はビーチハンド及び日本リーグ活性化等の積立とし、増額となった。

続いて監査報告があり、決算について適正であることを確認した。

業務監査について適正であった旨、報告があった。

以下の質問（に対する）要望と回答があった。

・特別登録金について、日本リーグチームから熊本世界選手権大会時特別登録金として制度化したものを、強化特別登録金として継続している。

・役員は全員登録させるべき。検討して欲しい。

・納入期限を6月30日に延期してほしい。

年度当初の協会の運転資金を確保するために5月31日締めとしている。

・サッカーなどでの個人登録をハンドボールでも行ってはどうか。

登録をしてもらうことを中心に進めている。今後、個人登録制に移行していくよう検討していく。高校、高専以外は個人登録金を徴収している。

3. 平成12年度第一次補正予算

平成11年度の目標達成状況を踏まえ、本年度の目標未達成部分の減収を補うために補正を組むなどの理由により、補正案作成の旨提案された。

4. 日本協会執行部組織について

・執行部の、特別強化委員会をアテネ五輪向けの強化委員会として組織し直し、これに対し本田技研のバックアップがある旨、報告があった。

・普及特別委員会について、競技本部に会長選出を一任する旨、報告があった。

・プロジェクトチームの創設、将来の組織編成をにらんでの新参事の選出、強化部長の就任について報告された。

・事務局について報告された。

5. 国民体育大会ハンドボール競技の夏季大会移行について

日本体育協会より、本協会に対して、移行の打診があった。これを受けて、都道府県協会へのアンケートを実施し、その回答結果の報告があった。その内容を集約し、体育館での実施、全県参加、参加人員の増加など日体協とハンドボール協会の考えをすりあわせながら推進していきたいとの報告があった。

以下の意見と回答があった。

・TV放映が可能、強化のスケジュール問題を考慮し賛成。

・2006年の国体は秋の大会に向けて検討をすすめている。

（回答）日体協は静岡国体以降、移行の意向である。

・サッカーでの64名増の意味は何か。ハンドボールではブロックで1チーム増が可能なのか。

（回答）ハンドボールは、体育館確保、参加人員の増など総合的に考えて日体協との交渉をしていきたい。

・高校生の引退の問題などで反対である。

【報告事項】

〈総務本部〉

1.「がんばれハンドボール10万人会」関連について

2. 広報体制の強化について

新聞、TV、雑誌、インターネットなどを通しての広報活動を実施している。プレスリリースは積極的に行うことの確認をした。事務局長以外の担当者をおいて、積極的な対応をしていく。また、日本リーグ各チームにも広報担当をおいて、海外派遣などの情報提供を行っていくように要請した。

3. 平成11年度日本協会表彰者について

〈競技本部〉

4. 国際大会について

①ビーチハンドボール（2001年2月）ブラジル世界選手権について、②秋田ワールドゲームズについて、③東アジア大会について、④ヒロシマ国際大会（ジ

ャパンカップ）について報告があった。

5. NTSについて

指導方法に関する打ち合わせは終了している。各都道府県選出90名の中から、中央研修に参加する選手を選抜し召集する。この中から、ナショナル選手を養成していく。あわせて指導者の認識も大切であり、そのためビデオや教本を作成し、販売予定である。

以下の質問・意見と回答があった。

・アンダー16との関連をどのように関連させていくのか。各ブロックの実状を考慮しながら進めて欲しい。

（回答）全国統一の推進方法の標準化（マニュアル化）していかなければならない。どうすればうまく運ぶかを指摘していって欲しい。

6. マッチバイザーの任務とガイドラインについて

マッチバイザーの報告書について説明があった。

・「マッチバイザーの日当についての基準を示して欲しい」との質問があり、「各協会で判断して欲しい」との回答がなされた。

7. 社会人連盟の設立について

発足を検討したい。東京在住の理事、参事、学生連盟も交え、検討を進めたい旨、報告があった。実連、学連などの参加を得たい。

8. 文部省公認指導者養成事業更新について

文部省告示であった指導者の公認事業は、省令に格付けされた。これは、スポーツ振興法に基づいた活動であり、公認指導者の資格取得は、法的な裏付けがなされてきていることの認識の必要があることが強調された。

9. 各種大会要項について

各協会に送付済み。

10. ユニフォーム広告について

細則について説明があり、ユニフォームへの広告の基準作成がなされていることが報告された。

〈強化本部〉

11. 強化関連報告

アジアでトップになることを目標に強化をはかること、強化方針、強化スタッフ、ナショナル候補の報告があった。

ナショナルスタッフの専任化をはかることを検討している。シーズン制を設け、強化を行うことを検討している。学生のレンタル制度（強化研修制度）として、大学4年生をJHLのトレーニングに参加できるようにする。

・「日本の強化についてはよくわかる。NTSと学生レンタルとの併存は複雑ではないか」との質問があり、「アテネ五輪向けの対策としての学生レンタルである。NTSは長期的な計画である」と回答。

12. 海外遠征届け出の徹底

海外遠征届出用紙の説明があった。都道府県レベルでの海外遠征を日本協会に届け出をするように要請した。

評議員よりの要望事項

保健体育審議会にある総合型地域スポーツ対策をやっていって欲しい。大会消化型の運営中心からの方針転換をして欲しい。

（回答）一環指導体制作りについては、7競技で文部省が補助金を出している。サッカー、バレー、ハンドボールなどの地域連携スポーツクラブを作る予定である。

登録数の減少という危機感を持っている。小学生ハンドボールをてこにして地区に根づかせていきたい。都道府県では、市町村への働きかけをお願いしたい。

平成12年7月度常務理事会

［日　時］平成12年7月8日（土）
10：00～16：30

［場　所］代々木第2体育館会議室

［出席者］中澤副会長、市原専務理事、常務理事8名、参事2名、監事2名、事務局2名

【審議事項】

1. アテネ強化特別委員会について

6月30日開催の同委員会会長の考え方としての強化推進策の報告があった。同案に対し、強化委員会で検討し早急に対応することとした。日本協会、強化委員会、アテネ特別委員会の実行分野を検討することとした。

2. 普及特別委員会会長選出について

同委員会の組織作りについて、普及に関する現状と施策及び問題点を把握し、組織作りを含め会長の選出を考えることを了承。

3. 男女ビーチハンドボール世界選手権2001年について

2001年ブラジルで行われる世界選手権大会にアジア代表として男女チームの参加を指名してきた件について、男子のみ参加する事をAFに伝えることを承認。

4. 審判部の会計管理に関する提案について

審判部からの会計取扱に関する要望について、審判部予算は特別会計扱いにはできない、特別事業として実施する際は特別会計扱いにできることで了解した。

5. 国体夏季大会移行について

国民体育大会開催基準要項の改正の検討があり、夏季大会に移行することのメリットを踏まえ移行の検討が迫られた。アンケートの結果を踏まえ、夏の大会へ移行することを秋の理事会までに合意したいことが提案され了承した。

【報告事項】

1. がんばれ10万人会登録状況について

各都道府県別サポート会員加入状況について報告。加入者なしの県も見られ、今後の活動を推進することとした。

評議員会での意見を踏まえ、還元金について提案。会員種別毎に還元金増額案、会員総数による総額比例方式など、検討することとなった。

2. 日本リーグ在籍外国人スタッフ・選手感謝激励会について

実業団選手権開催時に7か国17名の外国人スタッフ及び選手との意見交換会を開催し審判、大会運営、観客数、強化対策などについて話し合った。

3. 強化関連について

第4回女子世界学生選手権大会について報告。山田永子選手が得点王を獲得。女子ナショナル欧州遠征報告。

ジュニア女子アジア選手権日程、組み合わせ、男女2001年世界選手権アジア予選日程報告。

各ナショナル選手団の海外遠征に際して内規として諸条件を決めることを了承した。

4. 第41回全日本実業団選手権大会報告

がんばれ10万人会情報　新会員紹介

【北海道】田中　勇、小笠原久美子
【岩　手】谷藤みゆき、上川正二
【秋　田】高橋栄治
【福　島】佐藤　靖、後藤康男、渡辺栄子、佐藤　巧、北郷雅之、村上広憲、伊藤篤史、横田廣基、高木和之、高橋光洋、南　詩帆、五十嵐克幸、五十嵐裕太、山本英介、鳴原　裕、中村祐樹、久米洋輔、渡辺慎也、高木晃二、武藤義智、武藤幸平、笠井健一、小椋智弥、藤井　純、柳沼昭彦、佐藤幸太郎、矢子隆次郎、渡辺　司、湯田　喬、伊藤彩子、野地友香里、宗像　潤、小針和章、渡辺栄二、川崎美穂、志村利香、太楽由美子、緑川恵子、長川理恵、杉田麻由美、赤沼浩太、山田尚子、鳥居　瞳、佐藤幸枝、菅野脩子、草野真理子、佐藤夏美、渡辺理沙、宍戸麻希、関　美智子、加藤　聖、水野翔太、玉川卓生、佐久間聡美、小林和恵、伊藤江梨、三瓶実香、伊藤良子、遠藤美保、遠藤佳世子、酒井真奈美、栗城祐介、伊東光一、石塚忠継、喜多見哲司、遠藤祐司、佐山諒、藤田智幸、青山好宏、櫻田圭生
【茨　城】増田　徹、稲吉　繁、細津由紀子
【埼　玉】齋藤和也
【千　葉】木内兵太郎、祖父江洋子、窪田　優
【東　京】杉山広樹、小松政子、黒田理子、長田　馨、中村綾桂、庚塚克子、佐藤佐知子、吉田和之、江頭恵美子、西村興八、野島さやか、湧井悦子、安藤純光
【神奈川】芦田一彦、松井幸嗣、内林淑子、久保弘毅、中丸英一、坪井俊之、蒲谷裕正、坂本重樹
【山　梨】田辺久雄、栗原富貴子
【富　山】宮崎美佳、㈱ヨシエスポーツ、吉水慎一、中浦　悟
【石　川】荷川取義浩、谷口俊春
【福　井】多田由明、村上義昭、由岡あつ子、大谷善雄、宇野栄一、太田　博
【静　岡】山北憲司、森野慎司、奥野正夫、山本繁春
【愛　知】西口誠一郎、西口貴子、浅野幹也
【三　重】加藤　公、大石道子、福田亜紀
【岐　阜】森　勝博、安田秀喜、川畑吉充、松波智久、和田津由子、中島明美、坂井田隆浩、新井勇樹、後藤理賀子、若井好貴、黒川弘樹、古賀高明、岸野　巧、堀　貴仁、竹内利嘉子、宮田　浩、渡邊国康、小川浩毅、小川砂織、冨田雄一、松崎美枝子、馬場伸也
【滋　賀】小池充弘、船野康浩
【京　都】橋本善次、片山健史、石井惇史、久保公雄、久保靖子
【大　阪】松林義政、畑下和美、幸田良一、中村博幸、中村昌幸、恵美正三、浅井隆志、山中信人、馬瀬忠義、小森園多恵子、都倉達殊、水野恵樹、山本隆弘、源野幸次、城谷昌吾、宮崎　寛、近藤善重、田嶋佐和子
【兵　庫】梶原和久、村上　潔、松本茂宏
【鳥　取】瀬島美紀子
【広　島】門田勝正、坂本行信、木村　茂、尾上正信、青戸勝好、田中荘二、若狭伸次、吉田幹夫
【山　口】青木典生、青木　遼
【愛　媛】野中　聰、竹村久晴
【高　知】有光正憲
【福　岡】池辺晴二
【大　分】阿部末忠、重住かおる
【宮　崎】堀ノ内真澄
【鹿児島】長木まみ

[9月の行事予定]

〈大会〉
★第7回アジア男子ジュニア選手権大会
8月24日～9月11日／イラン
★オリンピック大会
9月16日～10月1日／シドニー

〈会議〉
★日本リーグ部長会
9月8日㈮／東京
★常務理事会
9月9日㈯／東京

HAND BALL CONTENTS SEP

柔らかな感触で、最適なバウンド！

新発売

PKCH3-AD DX
5,500円

new

PKCH1-ADJ
3,600円

new

PKCH2-AD DX
5,400円

手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH2-ADR
2,700円

PKCH3-ADR
2,800円

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四一一号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十二年八月二十六日印刷 平成十二年九月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 三四八一－二三六一
〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 市原則之

価格は登録金に含む